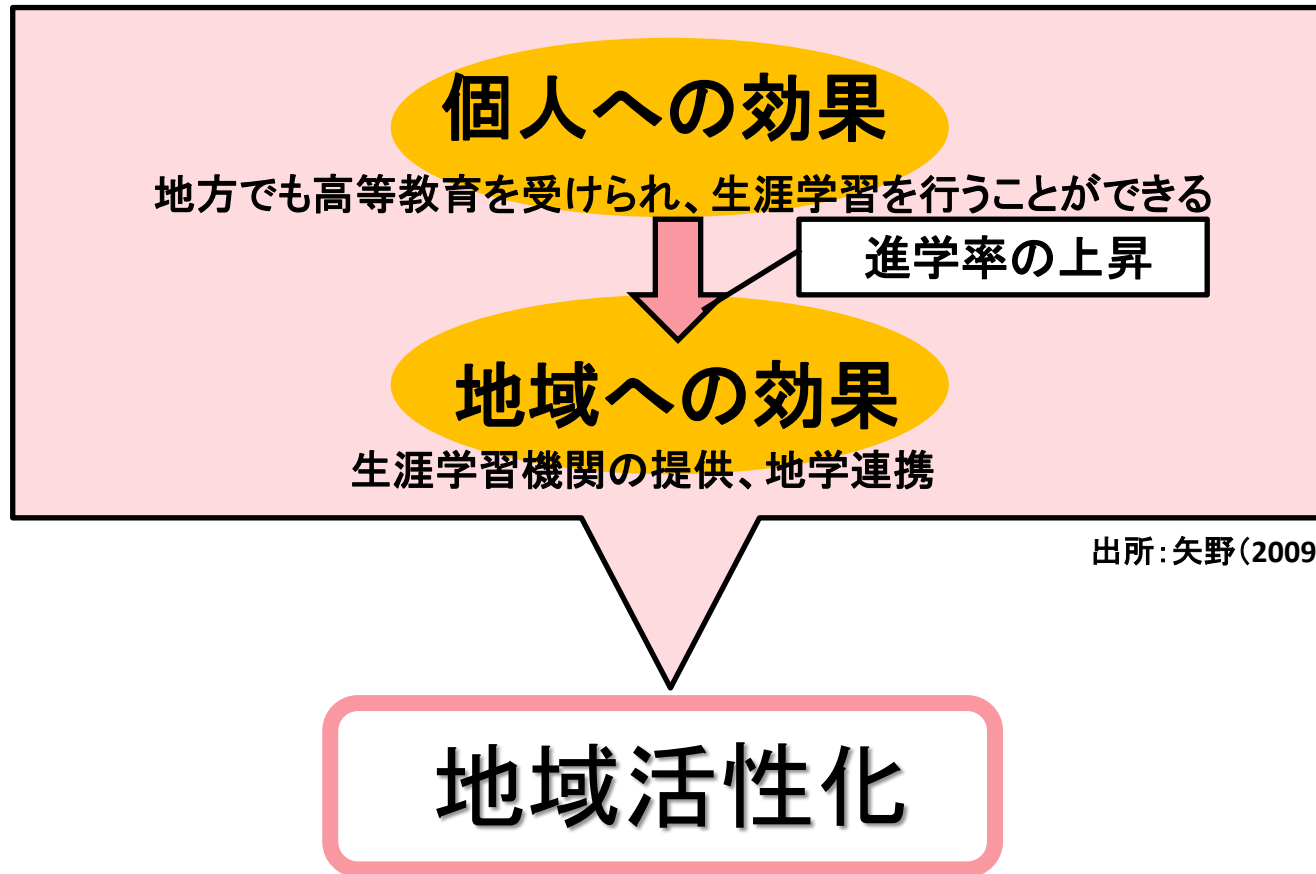


5.教育効果の分析

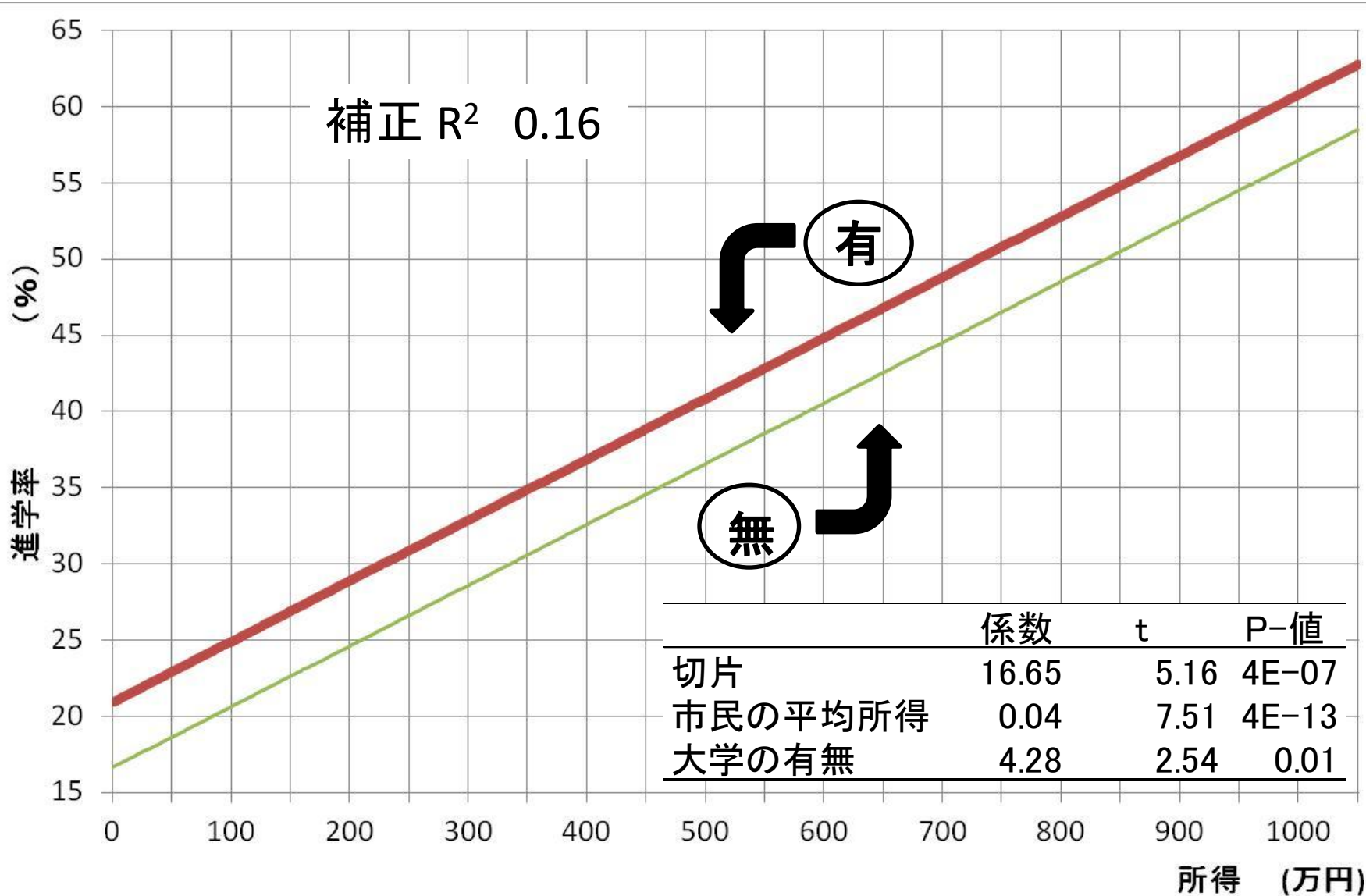
地方大学の教育効果とは



地方大学における教育機能は

- ① 高等教育機会の地方間格差の是正
- ② 教育機関としての地域貢献機能

進学率と大学の有無・平均課税所得の関係



地域貢献機能

- ①お祭りや街おこし等の行事への学生の参加で活力を与えることができる(中村2008)
- ②アルバイト労働者としての安定的労働力の提供
(特に塾講師、家庭教師等、教育産業に有効)
- ③留学生受入による国際交流、国際化への貢献
- ④地方で働く人が再び教育を受けようと考えた際の受け皿(生涯学習やリカレント教育)
- ⑤自治体図書館が少ない地方でも、大学図書館があれば誰でも専門的学術図書を利用できる

大学の有無の違いによる市の蔵書数の違い

表1

	大学有	大学無
平均	5.73	3.77
最大	15.84	9.32
最少	0.32	0.00

表2 平均の差の検定

	市民一人当たり蔵書数(大学有)	一当たり蔵書数(大学無)
分散	7.12	2.43
観測数	125	347
自由度	156	
t	7.95	
P(T<=t) 片側	0.00	

P(T<=t) 片側が0.025以下なら、2つの平均値に有意差はあると判断できる

結果・・・大学がある市は一人当たり蔵書数が多い

地方大学の教育効果まとめ

地方大学の存在



進学率の上昇に寄与
地域社会へ教育的貢献

進学率上昇
↓
学生の増加
↓
より多くの
地域貢献が可能に
↓
地域活性化

地域活性化

大学の利用者増加
↓
地域の学習活動拡大
↓
その地域の文化水準
向上
↓
地域活性化

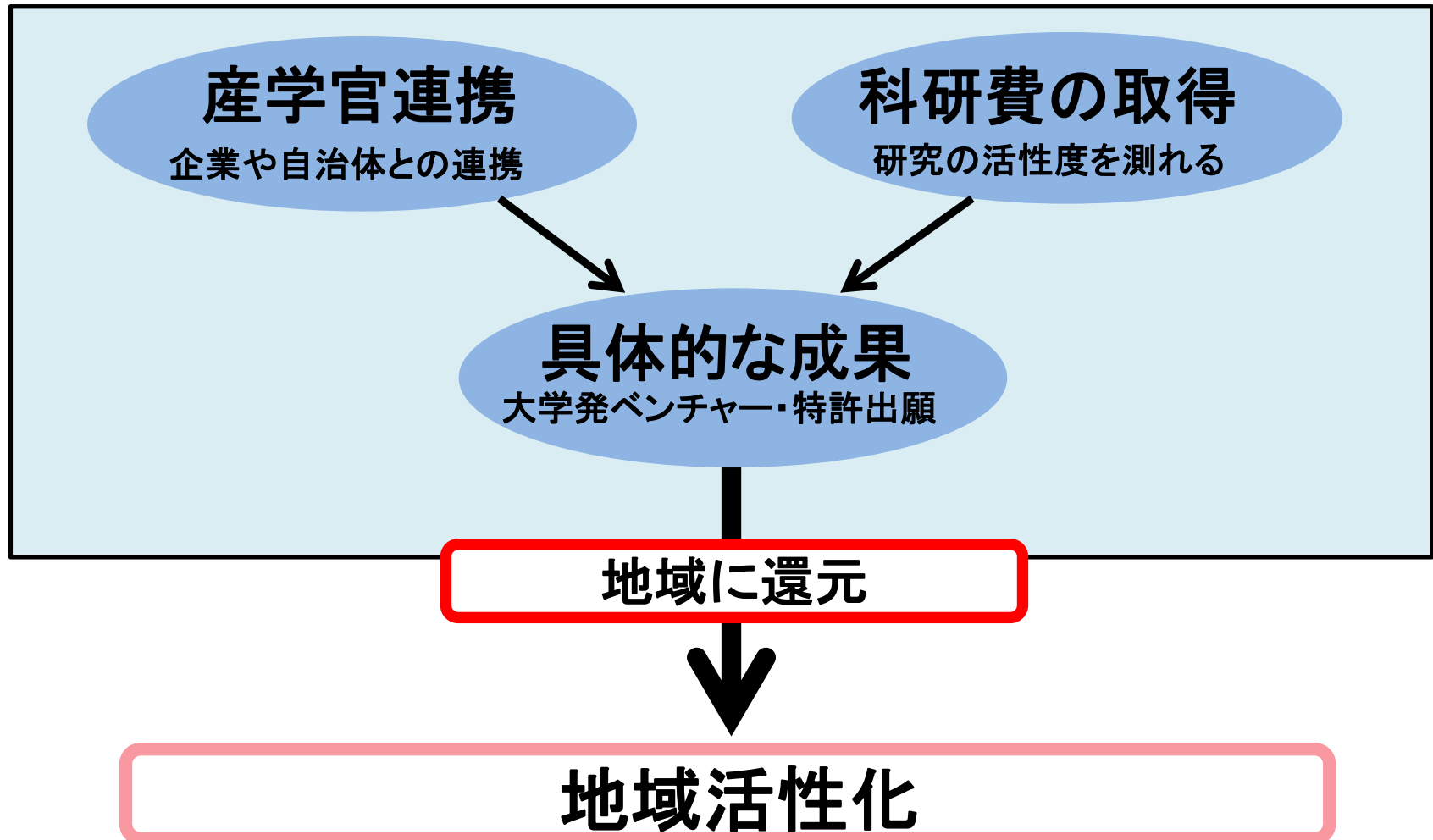
今以上に大学を地域にアピールしよう！

6. 研究効果の分析

研究効果とは

地方大学における研究は
地域における「知の拠点」として研究の効果を
地域に還元する役割

地方大学は研究の効果をどのように地域に還元していくのか…



研究の効果の活性度を測る **指標を作成!**

研究機能の指標

1. 産学官連携の指標

- ・共同研究の件数、額
- ・受託研究の件数、額
 - ・産学連携協定数
 - ・官学連携協定数
- ・産学連携窓口の有無

2. 研究費の指標

- ・科研費の採択件数
- ・科研費の配分額

3. その他の指標

大学発ベンチャー数、特許出願数

相
関
関
係

地域活性化の指標

人口の増加

(就業者人口、18歳人口等)

就業者数の増加

事業所数の増加

消費額の増加

失業者数の減少

観光客数の増加

産業分野ごと就業者人口

【仮説】

- ・大学の研究機能が、**企業の生産性を上げたり、**
新商品を開発に寄与しているならば、相関はあるのではないか
- ・**自治体との積極的な連携により、地域との関わりが深まれば、**
活性化に寄与しているのではないか

研究機能の指標と地域活性化の指標について
88通りの組み合わせで相関分析してみたところ...



相関はみられなかった！

研究機能には
地域活性化につながる効果は
ないのだろうか？

定量的には明らかにはならなかったが・・・

実際に地方大学の研究機能が
地域活性化に結びつく事例は存在する！



その活動事例から地方大学がもつ
研究機能の効果を定性的に分析し
その効果を示していく

「はこだて国際科学祭」

「公立はこだて未来大学」が中心となり行政機関・高等教育機関等と連携して行っている地域ぐるみのサイエンスフェスティバル

2009年
8500人



2010年
11000人



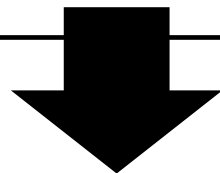
2011年
12000人

年々動員数
が
増加

はこだて国際科学祭を開催することで期待される効果

市民の科学への関心の喚起 / 大学・企業などの宣伝効果
専門人材育成 / 市のイメージアップ / 町の活性化・話題作り

大学・企業等が地域交流の機会を提供し、
大勢の人々に研究の効果を実感させる



「町の活性化」に寄与している



創作人形の「ボルタ」

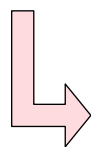
「**室蘭工業大学**」の学生等が考案し、
室蘭市、文部科学省産官学連携コーディネーターとの連携で
地域の活性化を目指す市民団体が開発

創作人形の「ボルタ」の商品化に成功！



創作人形「ボルタ」の商品化で期待される効果

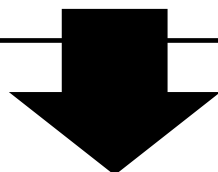
まちの活性化、話題づくり／鉄の街室蘭市のイメージアップ
若者による地域活性化への貢献／観光客数の増加



地域貢献度ランキングで全国1位の評価

(平成18年7月 日経グローバル記事)

制作体験やイベントを通じた地域住民と観光客の内外交流の増加



室蘭市の活性化に寄与している



ここまですべて理系大学の事例
文系大学には地域活性化への貢献はできないのか？

事例3

文系大学の地域活性化への可能性

観光ホスピタリティカレッジ

「**松本大学**」が「観光ホスピタリティ学科」を新設

そのノウハウやカリキュラムを応用した

ホスピタリティ(おもてなし)の質の向上を目的とした**社会人講座**を行う

平成19年度は**12都市**、平成20年度は**9都市**から視察を受ける！

観光ホスピタリティカレッジの開催で期待される効果

社会人に**学習機会**を提供／**観光事業の活性化**
大学の知名度の向上



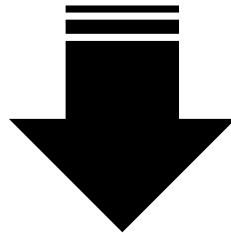
まだ具体的な効果は出ていないが

**大学と地域の連携は、継続していくことで
双方にとってより大きい成果につながる**

(深沼(2010))

事例から読み取る研究の効果

- 大学、企業、地域の人々が交流できる場所を提供
- こどもからお年寄りまでが参加できるイベント
- 立地する市のイメージアップ＝大学のイメージアップ
- 企業や自治体に大学の活動をアピールできる
- 活動による学生や地域の人々に対する人材育成効果



地域ごとに魅力ある大学は異なる！